

## 平成30年度 学生海外研修報告書 (担当教員)

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名： 法文学部/准教授

氏 名： 鶴戸 聡 (引率：森田豊子)

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>今回の研修では、法文学部の学生14名と理学部の学生1名が参加した。台南にある成功大学、高雄にある高雄大学および高雄科技大学の3つの協定校との交流を中心におこなった。今回の研修の大きなテーマに、同じ少子高齢化社会である日本および鹿児島の社会を比較するというものがあった。事前研修では第一にNHKのドキュメンタリー「台湾(前編)“天然独”高まるアイデンティティ」および「台湾(後編)モザイク模様の島をめぐる」の一部を視聴し、「台湾人(天然独)」として独自のアイデンティティを自覚し、社会運動や政治運動を行っている若者の姿、さらに、台湾原住民や近年台湾に多く入国している東南アジアからの移民(新移民)など、多様なアイデンティティを持つ人々が存在し、多様性を尊重しようとしている現在台湾の姿を知った。その後、事前学習では、協定校で行うプレゼンテーションを3班に分かれて準備した。特に、現在の鹿児島地域においても深刻な問題であると考えられる問題を取り上げることにした。これらを考慮して、事前学習におけるプレゼンテーションの準備がなされた。1班は日本の学校制度について、2班は日本の就職活動について、3班は日本と台湾の外国人労働者の状況の比較を行うプレゼンテーションであった。研修の初日には、30年以上台湾に暮らしている、台湾人と結婚した日本人女性が結成している「居留問題を考える会」のメンバーの方々から、台湾で国際結婚した日本人の法的地位の問題、教育、介護の問題について、発表を聞き、班ごとに分かれてお話を聞く機会を得た。次に花蓮に移り、花蓮では台湾少数民族の文化に触れたり、日本統治時代の日本人が建設した神社の跡を博物館にしている場所を見学したりした。さらに、台南に移り、協定校である成功大学の先生方のご協力のもと、現代文学館の見学、成功大学において台湾語の授業への参加、大学見学をさせていただいた。次の日からは台湾では中秋の連休にあたり、その間、学生たちは台南の歴史建造物を見学し、それから高雄へと移動した。高雄では、高雄科技大学の学生と1日バスツアーを行い、次の日には日本と台湾の文化の違いについてディスカッションした。高雄大学では、準備してきたプレゼンテーションの発表を行い、プレゼンテーションの内容について、学生たちとペアになって意見交換を行った。</p> <p>去年と異なり、天候にも恵まれ、予定通りに研修を進めることができた。特に高雄科技大学には、日本語がまったくわからない学生もいたことから、中国語と日本語と英語の中で自分がわかる言葉を使って、コミュニケーションを図るという初めての経験をした学生も多かった。帰国後、成功大学からの留学生のチューターとなる学生もいたり、中国語や英語の勉強をもっとしようとする学生、台湾の独立運動について考えたいという学生も生まれた。何より、去年台湾研修に行き、今年成功大学に留学した学生に今年の研修で会うことができ、今年の参加者たちに刺激を与えてくれたことが嬉しかった。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>今回は人数が比較的多かったため、一人一人個別の対応をすることが難しかった。どうしても班ごとに対応することになってしまった。全員が一度に食事ができる場所などの確保など、引率の問題について工夫、改善していきたい。</p>	